ごあいさつ　（事業の概況）

平素は当上越信用金庫に対し、格別のご支援、ご協力を賜り、有難く厚くお礼申しあげます。

本年も、当金庫の経営内容をご理解いただき、引き続き安心してお取引いただけますよう、ディスクロージャー誌「上越信用金庫の現況2011」を作成いたしましたので、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

平成22年度の我が国経済は、前半はデフレ状態が慢性化するなか、急速な円高の進行や株価の下落などにより低迷がつづきました。後半に入っても原油、穀物などの一次産品の高騰などが加わって更なる下押しの懸念が強まりましたが、政府・日銀による経済政策や一部大手企業の好調な輸出に支えられ徐々に持ち直しの動きが見られてきました。そうした矢先の3月11日に東日本大震災が発生し、経済は大混乱に陥り、先行き不透明な状況となりました。当地では、この大震災による大きな影響はありませんでしたが、当金庫のお取引先においては、長引く景気低迷により、業況、資金繰が依然として厳しい状況がつづくなど回復感のない1年間でした。

こうした状況下において、当金庫の業績につきましては、預金は期末残高196,539百万円となり前年度期末比1,265百万円増となりました。科目別では、定期性預金が126,279百万円、要払性預金が70,259百万円、人格別では、個人預金が167,754百万円、法人等の預金が28,784百万円となりました。

貸出金は期末残高74,158百万円となり前年度期末比2,945百万円減となりました。科目別では割引手形が1,221百万円、手形貸付が7,074百万円、証書貸付が61,076百万円、当座貸越が4,786百万円、人格別では、個人への貸出金が28,979百万円、法人等への貸出金が45,179百万円となりました。その結果、預貸率は37.73%となりました。

有価証券は期末残高67,910百万円となり、前年度期末比622百万円増となりました。

損益状況につきましては、業務純益571百万円、経常利益405百万円、当期利益356百万円となりました。

当金庫は平成21年4月に「永続性ある経営の確立」「地域密着型金融の深化」「独自性の更なる発揮」の3つを基本方針とする3ヶ年計画をたて、この計画実行のため、地域の皆様との絆・結びつきを一層堅固なものとするため努力してまいりました。又、「中小企業者等金融円滑化法」が施行され2年目に入りましたが、この間お取引先に対しまして経営支援等の金融の円滑化に全力で取組んでまいりました。

新年度は、3ヶ年計画の最終年度にあたりますので、地域密着型金融の一層の深化に努めると共に、新たに「ふるさと絆プロジェクト」を立ちあげ、金融分野のみならず、様々な分野で地域貢献活動を行い、地域社会との信頼関係を深め、顧客満足度の高い経営を目指してまいります。

終わりに皆様方の一層のご発展、ご隆昌を祈念し、今年も一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

平成23年7月

理事長　佐藤　健